

犬のしつけは1回につき2〜3分間、1日に4〜5回行うのが理想的です。長時間だと飽きたり疲れたり嫌になるかもしれません。また、時間は不規則にした方が、儀式化することなく効果的に行えます。

ステップ1  
アイコンタクト

しつけの第一歩は犬の注意を飼い主に向けること

名前を呼ばれたら飼い主の方を見る、アイコンタクトはしつけの第一歩です。ごほうびをうまく使って、「飼い主の目を見ればいいことがある」と覚えさせましょう。

- ① フードを手で持って犬の鼻先に持っていき。
- ② そのフードを飼い主の顎に近づける。
- ③ 犬と目が合った瞬間に名前を呼んで、すぐにフードを与え、同時になでる等してほめる。



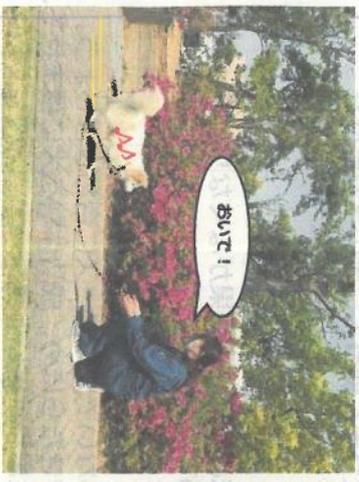
ステップ2  
「おいで」

呼ばば戻ってきて、捕まえられる = あらゆる危険から犬の命を守ります

ポイント!

- ① 名前を呼び、犬が飼い主に注目したら腰を落として「おいで」と声をかける。両手を広げるなどのアクションを入れると犬も分かりやすいでしょう。
- ② 首輪をつかむことができるくらいまで寄ってきたら声をかけて十分にほめます。

呼んでも犬が寄ってこなかったら、犬の逃げるものを追いかける習性を利用して、呼びながら後ずさりしてみましよう。



ステップ3  
「おすわり」

落ち着いてほしい時・飛びついては困る時・信号待ち等

- ① フードを犬の頭上から犬の後方へ移動させる。
- ② 犬がフードにつられてお尻を床に落とすと同時にフードを与え、「おすわり」の姿勢を教える。
- ③ 姿勢を覚えたら、今度は「おすわり」と言いながら①のようにフードを動かしておすわりの姿勢に誘導し、おすわりの姿勢になった瞬間に、ほめ言葉と同時にフードを与える。
- ④ 「よし」などの声をかけて解放する。これができるまでくり返す。



ステップ4  
「ふせ」

犬にとって落ち着ける姿勢 長時間待たせるときに

- ① おすわりをさせた犬の鼻先にフードをかざして、犬の前方の床までそのフードをゆつくりと降りしていく。
- ② 犬がフードにつられて、前足を折り曲げて胸を床についたらすぐにフードを与えます。「ふせ」の姿勢を教える。
- ③ 姿勢を覚えたら、今度は先に「ふせ」と言いながらフードでふせの姿勢を誘導して、できたらほめ言葉と同時にフードを与える。
- ④ 「よし」などの声をかけて解放する。これができるまでくり返す。



# ステツプ5 「まて」

## 動かさずについてほしい時・リードのつけ外し等

- ① 犬におすわりをさせて向かい合い、「まて」と言いながら、犬の顔の前に大きく手のひらを見せるように置く。
- ② まずは1秒でも止まっていられたら、「いいこ」などのほめ言葉と同時にリードを与え、「よし」の合図で解放する。
- ③ できるようになったら、「まて」の時間を長くしたり、飼い主が犬から離れても待っていていられるように練習しましょう。



### ステツプ6

ステツプ① フードで誘導し、覚えさせたい姿勢や動作を教える  
 ↓  
 ステツプ② フードで誘導しながら号令をかけ、その言葉と姿勢を関連づける  
 ↓  
 ステツプ③ フードを持っていない状態で誘導し、いつでもできるようにする

どの段階でも、正しい行動ができたその瞬間にほめ言葉とごほうびをあげてください。ステツプ③を覚えたら、手の誘導なしに、号令や手のサインだけでも正しい行動をする練習をします。さらに、正しい行動ができた後のごほうびがなくなっても、ほめ言葉だけ、なでるだけというパターンも練習してみてください。

しつけは、災害時や旅行等、日常生活以外でも役に立ちます。いつでも誰からでもどんな場所でも、正しい行動ができるようにするといいですね。

**虐待・遺棄は罰せられます**

<p><b>殺傷</b></p> <p>みだりに殺傷した場合は、500万円以下の罰金</p>	<p><b>虐待</b></p> <p>飼っている動物に対してみだりに給餌、給水をやめる等して懲罰せざる。1年以下の懲役</p>	<p><b>遺棄</b></p> <p>捨てた場合は、100万円以下の罰金</p>
--	--	---

5年以下の懲役  
または500万円以下の罰金

しつけは犬と一緒に楽しく行いましょう。叩くのは虐待とみなされることもあります。

ペットは一度飼いはじめたら、命が尽きるまで**終生飼養**してください。飼い主も周囲の人も犬の幸せに暮らすために、しつけは重要です。より詳しいしつけ方については、保健所までお気軽にご相談ください。

# 飼い犬と、楽しくしつけを覚えてみませんか

## なぜ、しつけが必要?

しつけとは、犬が人間社会に適応して生活していくための基礎教育です。基本的なルールを身につけることがしつけの本質です。他人に迷惑をかけない、他の犬や人間と仲良くする等、犬は人間社会のルールを知りませんので、飼い主が犬に教えないはいけません。しつけを通じて飼い主と犬との信頼関係を深めることで、お互いが何をしたいか、何を欲しくないのでか、理解できるようになります。

## ほめてしつける

犬はほめられた、ごほうびのフードがもらえた、という経験から飼い主が求めている行動を学習していきます。動物は楽しいことは繰り返して、嫌なことは避けるという習性があります。犬が正しい行動をとったときには、**たっぷり**とほめることが大切です。上手にほめてあげることがしつけを成功させるポイントになります。

## トレーニングを成功させるコツ

- ・ **ひとつの行動にはひとつの号令**  
「おすわり」なのか「座れ」なのか家族で統一しましょう。いくつもの号令は犬が混乱する原因になります。
- ・ **号令は1回**  
何度も連呼すると、連呼したときだけ従えばいいと思うようになります。
- ・ **動作の始まりと終了を示す**  
号令(おすわり等)～行動～ほめる～解放(よし)をセットにして、どこからどこまでかがひとつの行動なのかを犬にはっきり示しましょう。
- ・ **ごほうびをうまく使う**  
犬が好きな物(フード、おもちゃ等)をうまく使って、犬の学習意欲を刺激するのも効果的です。
- ・ **ほめるタイミング**  
犬がその行動を取った瞬間をとらえてほめなければ効果がなくなります。1回号令を出して、できたらすぐにほめてあげましょう。
- ・ **できなくても叱らないで!**  
できなくても叱ったりせず、無理強いしないで犬のペースに合わせてみましょう。できなくて叱るより、最初は1秒でもできたらほめ、成功体験を犬に積み重ね、犬にとっけしつけの時間は楽しい時間と思わせましょう。